

第一回関東小学生作文コンクール 「海外に紹介したい日本のこと」  
〈最優秀賞〉

世界にはこれる日本の交番

印西市立小倉台小学校 四年 有坂優宏

「えっそうそでしょ。どうしてないの。」ぼくは、心の中でさげんだと同時に頭の中が真っ白になって何も考えられなくなった。サイフを開けたらパスモが入っていなかった。ぼくはサイフを開けた場所を一所けん命思いだした。

それは、浅草文化観光センターだった。ぼくと母は、急いで浅草文化観光センターへ行った。

「すみません。パスモを落としたんですけど、とどけられていますか。」

とぼくは受付のお姉さんにたずねた。

「少々お待ちください。」

お姉さんは、カウンターの後ろでノートを調べてくれている。「神様、お願いします。どうかパスモが見つかります様に。本当におねがいます。」と心の中で祈った。待っている間はとても長く感じた。まだかな。まだかな。ぼくはきんちようしていた。

「ありましたよ。き重品なので交番にとどけました。目の前の交番よ。」

ああ、神様ありがとうございます。本当にありがとうございます。ぼくは心の中で神様にお礼を言った。そして受付のお姉さんにきちんと頭を下げてお礼を言った。ぼくと母は急いで交番へ行った。交番の中はともいそがしそうで次々に電話がかかってきていた。交番の中にはノートパソコンをぬすまれた人や道にまよった人や、サイフを落とした人など、みんな交番に助けをもとめている。交番の入り口にも順番にならんでいる。ぼくの番が来た時、おまわりさんにぼくのパスモがこの交番にとどけられていることを話をした。おまわりさんは、どこでなくしたのか、名前が書いてあるのかなど、

紙に書きながらやさしく聞いてくれた。とつてもいそがしいのに子どものぼくの話をきちんと聞いてくれた。こうしてパスモはぼくの手元に帰ってきてほっとした。この時、いっしょにいた父の友だちのオーストラリアの人が教えてくれた。

「私たちは、いろいろな国へ旅をしていますが日本のような親切さや安全さは日本が一番です。」と言った。

ぼくはびっくりした。日本では交番が身近な所にあるのに、外国には身近な所にはない。日本が世界一安全な国と言われているのは、交番があるからだと思った。交番は二十四時間体せいで、街と住民の安全を見守っている。もし、日本に交番がなかったらどうなっていたのだろうか。落とし物を拾っても、けいさつ署まで行かないとどけられない。けいさつ署はとんでもこんでしまつて、すぐに対応できない。だから交番はとんでも大事でなくてはならないそんざいだ。だから交番は世界にほこれる日本の交番だ。

◎審査委員長からのコメント…

「とてもいきいきと書けています。表現力が光ります。自分の体験と、世界の中での日本の交番という視点を織り交ぜての構成も良かったです。」